

次期会長候補者マニフェストの掲載と投票のお願い

高分子学会理事監事選任規程に基づき次期（第36期）役員推薦委員会が8月7日にオンラインで開催されました。支部から推薦された2名の候補者に、推薦委員会委員から一次投票により推薦された1名を加えた合計3名を一次候補者といたしました。一次候補者数が3名であったため、全員を会長候補者として選出し、内諾の得られた下記の2名が次期（第36期）会長候補者として推薦されました。

この結果にもとづいて、2名の会長候補者のマニフェストを氏名の五十音順に掲載いたしましたので、ご一読のうえ是非投票をしていただきますようお願いいたします。なお、候補者氏名の下には、所属および現職・生年・最終学歴・学会における役職を記載しております。

投票は、原則として正会員によるウェブ投票で実施します。ウェブ投票を行うには、会員番号およびパスワードが必要となります。事前に会員番号およびパスワードをご確認のうえ、投票をしていただきますようお願いいたします。

URL：<https://www.spsj.or.jp/>

○ウェブによる投票

投票期間：2021年11月9日～22日

○郵送による投票

Eメールアドレスをおもちでない正会員の方のため、事前に送付いたします投票用紙を用いた郵便での投票も受け付けます。下記の郵便投票期間に是非投票をしていただきますようお願いいたします。

投票期間：2021年11月9日～18日（必着）

伊藤 耕三（イトウ コウゾウ）

Kohzo ITO

東京大学大学院新領域創成科学研究科教授・1958年生・東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
高分子学会関東支部長

Professor, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo

Born in 1958, Degree: Dr. Eng. (The University of Tokyo)

Head of Kanto branch of The Society of Polymer Science, Japan.



このたびは会長候補者の一人に選んで頂き大変光栄に存じます。この2年、私たちを取り巻く環境はコロナによって大きく変わりました。働き方や価値観、国の政策も劇的に変化しています。この時代の変革期にあって高分子が果たす役割はますます重要になっています。学術の深化と新展開を強力に推進するとともに、低炭素やコロナなど喫緊の社会課題に対して産官学が一致団結して果敢に挑戦し、SDGsの実現に貢献する学会を皆様と一緒に作り上げるため全力を尽くしてまいります。

会員サービスの充実：オンライン開催で3大行事や研究会などには海外も含めて参加しやすくなった一方、対面で密接に交流することが難しくなり、偶然の新たな出会いが減っています。各種行事を創意工夫して、オンラインによる利点を最大限に活用しつつ対面との両立を模索し、会員間の新しい交流モデルを構築することで、会員の皆様に満足いただくサービスの充実に最優先で取り組みます。また運営にあたってはジェンダーや世代間の多様性を重視し、皆様のご意見を反映しながら事務局と一体となって強力に推進します。

交流ハブ：同友会とも協力して学会が産官学／異分野の交流ハブとなることで、課題解決に中心的役割を果たしていきます。そのためにも学会活動の根幹である支部と研究会活動を特に重視し更なる活性化を図ります。会誌やPolymer J を通じた情報発信、インタラクティブなHPやWebinar、未来塾の活用、国際交流にも引き続き積極的に取り組みます。

人材育成：大きな変革の時代の中で、学会が人材育成の道場になることはこれまで以上に重要です。教育講座の充実、各支部の若手会の交流促進とともに、シニアにも協力いただきながら世代間の知見の継承も強力に推進します。国内外／産官学の異分野の若手が切磋琢磨する場を提供します。

西野 孝 (ニシノ タカシ)

Takashi NISHINO

神戸大学大学院工学研究科教授・1960年生
神戸大学大学院工学研究科修士課程修了
高分子学会副会長
Professor, Graduate School of Engineering, Kobe
University
Born in 1960, Degree: Ph.D (Kobe University)
Vice President of the Society of Polymer Science, Japan



このたびは会長候補者のひとりとして選んでいただきましたこと、大変光栄に存じます。高分子科学は学問として 100 年を超え、高分子学会は来年 70 周年を迎えます。コロナ禍によって人類は大きな困難に直面し、私たちの生活はもとより社会そのものあり方、価値観までもが変化しようとしています。これらの変化をポジティブなものとして受け止め、世界に冠たる高分子の研究・技術水準を高め、高分子の普及、展開に資する、“とつても魅力があって、色々面白くて、参加して役に立つし、沢山の方に集っていただける、裾野が広く、頂の高い” そういう高分子学会を目指します。

【集う場、発信する場として】

時間と空間を超えるオンラインのメリットを活用した上で、新たな出会いと人との絆、議論の場としてのオンラインの重要性を痛感しました。年次大会、高分子討論会、ポリマー材料フォーラムの三行事を含め、さまざまな事業について、運営方式だけでなく、企画、運営を新たに見直す好機です。会員の皆様はもちろん、支部、研究会、委員会、そして事務局や高分子同友会の皆様のご協力を得ながら改革を進めます。

【高分子と社会とのかかわり】

環境調和がさまざまな分野で課題になる中、高分子の分野は一義的に重要です。本邦発の高分子研究と技術が環境課題の解決に多大な寄与をなすことを、グローバルに情報発信することを目指します。そのために会誌、ホームページ、PJ 誌、高分子未来塾®の充実、国際会議、各国高分子関連学会、異分野の学協会との国内外の交流の活発化を図ります。

【未来へ】

産官学で高分子に関わる作る側、研究する側の方々だけでなく、使う側の方々も小中高生も、高分子をキーワードとして興味を持ってご参加いただく皆様に満足いただける内容と雰囲気を作り一層醸し出し、未来へ飛翔する高分子学会を目指します。